



片山 勇 (Be-project代表)

IT技術の進化によって、映像と通信が融合したコミュニケーションが身近になりつつあり、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」という次世代ICT(Information and Communication Technology)社会がすぐ手の届くところまで来ている。国も「e-Japan」に続く「u-Japan」政策を打ち出し、様々な分野でのICTの利活用技術の開発を支援しようとしているが、映像と通信、センサー、コントロール技術をセキュリティシステムと融合させ、農業や医療、介護・福祉、建設、小売など幅広い分野での新しい利活用システムの開発に取り組んでいるのが、大分県の創業支援施設「iプラザ(大分市東春日町)」に入居している「Be-project」だ。

## 社内ベンチャーとして創業

「Be-project」は 勉強堂防犯センター(大分市錦町、片山秀雄社長)の新規事業部。約40年間にわたって培ってきたセキュリティ関連ノウハウを基盤とした新規事業を立ち上げるために平成17年9月に創業した社内ベンチャーである。片山勇代表は片山秀雄社長の長男で同センター営業部長でもある。

防犯・防災・防御システムの専門企業である勉強堂防犯センターが畑違いともいえるIT関連事業を、なぜ「第2の創業」として立ち上げたのか？

片山代表によると、別府市で開催された日韓首脳会談(平成10年)での電話回線を使った映像警備や、ワールドカップサッカーの大分開催(平成14年)でのフーリガン対策として防犯カメラによる映像警備を手がけたことが背景にある。「現場に行かなくても出来るのがたくさんあり、映像をリアルタイムに見ることが出来るため、防犯以外の分野でも使えるのではないかと考えた」ことが発端だった。

実際、勉強堂防犯センターでは高塚愛宕地蔵尊の参拝・駐車場状況や周辺高速道路の状況、大分市の料理店の生けす・お奨めメニューをはじめ、旅館やホテル・ペンションなどの宿泊予約状況をプログラム不要でカレンダーだけで確認できるように、インターネットと防犯カメラを活用してライブ中継するシステムを手がけているほか、大分市の産業廃棄物リサイクル施設の処理状況をインターネットで生中継する画

像伝送システムを納入するなど、「本業のセキュリティシステムとは少し違った方向にシフトしてきた」ことに対応、ITに視点を置いた分野に力を入れるために事業部として創業したもの。

現在、「Be-project」はさまざまな分野でのシステム・ツール開発に取り組んでいる。具体的には、医療・福祉関係の徘徊防止システムや個人情報保護のためのアクセスコントロール、土壌水分やC



ビニールハウス  
遠隔管理システム

ライブ中継している大分市の料理店のお奨めメニュー。ボードに書くだけでHPの更新作業は不要だ。

O<sub>2</sub>濃度、紫外線量など複数のセンサーとネットワークカメラ・無線LAN通信モジュール・超高輝度LED照明などを内蔵したロボットを搭載した農産物のビニールハウス遠隔管理システムなどだが、今、最も

代理電話デモで聴覚障害者の電話を取り次ぎ・代行した電話遠隔サポートセンター(仙台市)

力を入れ、それぞれの用途に応じた商品化をめざしているのが「IPテレビ電話を活用したセキュリティ・コミュニケーションツール」である。

## ITは道具。どう活用するかが重要

これは大分県産業科学技術センターのものづくりプラザに入居しているシステム開発のコバン・システムと共同で商品化を進めているもので、電話機自体はすでに市場に出回っているNTT製。用途に応じてカスタマイズするもので、「NTTも積極的に進めたいとの意向」で、開発データの提供も受けているという。

今年2月には、片山代表が所属する産学官連携研究グループでの実証実験としてIPテレビ電話を使った代理電話システムの遠隔プレゼンによるデモンストラーションが行われるなど、すでに実用化されている「商品」も生まれている。同システムは聴覚障害者に代わって電話サービスを行うもので、当日は仙台市の遠隔サポートセンターと大分県聴覚障害者協会を結び、関係者や手話通訳等を招いてデモを行い、コールセンター経由の代理電話に何ら支障のないことが確認されている。

また、福島県でもIPテレビ電話での町内行事への参加意向を聞く実証実験が行われており、片山代表は「ハイとイエエのボタンを押すだけの簡単操作ですので、これは特に単身のお年寄り世帯の安否確認にも使えるし、IP電話を使うためにユーザー負担も発生しないというメリットがある」とし、今後、自宅に居ながらの英会話やダンス教室など、その応用分野への拡大にも取り組んでいくことにしている。

「ITは仕事や生活を便利にする道具でしかない」というのが片山代表の持論だ。「どう活用するかが重要」との考えで、このため「開発に当たっては難しい操作を要するものではなく、お年寄りとか子供など、IT弱者といわれる方も家電のように使える」よう



なシステム開発をめざしている。理想は任天堂Wiiのように説明書を読まなくても5歳児からお年寄りまでが楽しめるようなものだそうだが、「自分はプログラマーではなく、メーカーでもないの、既存商品から良いものを



いち早く見つけ、人的ネットワークを活かしながら付加価値をつけ、その中から競争力の強いオリジナル商品を作り出していきたい」としている。

「大手企業と競争するのでなく、どんな分野にも必ず隙間がある。欲を出さず、背伸びせずに、しかし、着実に前進していきたい」という片山代表。今年5月には法人化を予定しており、フロントランナーとして来るべきユビキタス社会をサポートする企業となる夢を描いている。

## 会社概要

会社名: Be-project(ビー・プロジェクト)  
本社: 大分市東春日町17番20号5015  
Tel097-594-6033  
代表者: 片山 勇氏(代表)  
社員数: 2名  
事業内容: セキュリティ関連ノウハウを基盤にしたIPテレビ電話を活用した各種ソフト開発及びシステム販売  
創業: 平成17年9月  
(今年5月に法人化予定)  
URL: <http://be-project.net/>